



①頂上参り 5.8(金澤和広+井上大助初登)

2P 目の終了点まで百八手で登った。悩みながら登る煩悩クライマーだからだ。この前、1P 目後半のスラブで 60 手減らし四十八手で登ると、さらに煩悩の負荷が大きくなった。体重も煩悩も軽くなるよう頂上で参拝した。(金)

②飛行機雲 5.10c(井上大助初登)

空気が澄んでくる晩秋、僕がこの岩場でいちばん最後に開拓したルート。2 ピッチ目のビレイ点からトップがリードしている姿を見上げると、青空に幾本もの飛行機雲が見えたのがルート名その由来。スラブの手さばき、足さばきが求められる 1 本。(井上)

③てんとう虫 5.9(金澤和広初登)

取付から終了点まで一直線のライン。中間部のフェイスをうまくクリアしたら、あとはお天道様に向かってキープ・オン・クライミング。(金澤)

④凹角チャレンジ 5.9+(井上大助初登)

登山道にある岩場のちょっと急な所という感じで、見た目はとにかくショボいが、登ってみればピリッとスパイスのきいた好ルートだった。(森山)

⑤鶴 5.8(渡辺修一初登)

初めてヌンチャクをギアラックにぶら下げて、さあ、これからリードクライミング、という人にぴったりのルート。終了点はラベルステーションになっており、ロープ結び換えの練習にも使える。(渡辺修一)



非公式版

⑥ 亀 5.7(渡辺妙子初登)

このルートも初心者の練習用によい。終了点は「鶴」と共用。ローダウンや、クライマーとビレイヤーのコールの練習にもおすすめ。(渡辺修一)

⑦ 聖親父 5.10c(井上大助初登)

この岩場のいちばん傾斜がきつそうなところ(といっても垂直~やや寝ている感じだが)に引いたライン。30m 弱あり、数カ所パワーを使うセクションがある。ロープの流れに注意。(井上)

⑧ ごんた坂 5.9(渡辺修一初登)

出だしにコケがついていて滑りやすいが、あとはフレークを掴んで左上すれば聖親父に合流して終了点となる。(渡辺修一)

